

新型コロナウイルスのオミクロンが出現し、ワクチンが十分に接種されない中で感染が急速に広がる風景

行を始めたらしいが、それが多額のもので、
になりかねない実態が浮かんだ。
それでも監査團は国内での追加
擴張を急ぎ、「ワクチン接種」は
広がる一方だ。 ▶1面参照



（6）「いすゞ、追加措置を要けられ」と呼
びかぬめロッテ、市内のバス停の広
告=18日、金盛園一撮影

時時
刻刻

ワクチン格差 置き去り

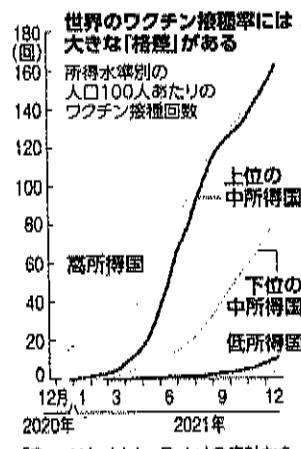
一方の先進国は、オミクロン株の脅威を前に、免疫を高めるワクチンの追加接種（アースター）を急ぐ。中でも感染者数で突出するのが英国。連日1万～2万人台のオミクロン株感染が確認され、24日時点では累積11万人超。入院は366人死者は29人のままだ。英國で最初の感染者が公表された11月27日。ジョンソン首相は「即座に情報を広く共有した南アフリカの

科学者を中心から感謝される。透過性の高い水際対策の一環としてアフリカ南部から英國への渡航を厳しく制限した。しかし政府はアースターワクチンとの間隔を「6ヵ月以上」から「3ヵ月以上」と半分に短縮し、対象者が40歳以上から18歳以上に拡大するなどの措置を矢継ぎ早に決定。接種会場をあちこちに設け、接種を担う薬局

への報酬も引き上げ、車
一千人頭を支援雇員として
各地に派遣している。
バス停、地下鉄駅、新幹
の全面広告。あれこれと下
「いまフースターを」と威
びかけている。記者の横
電話には9日は、「フース
ター予約を」と求めるメ
ッセージが連日入った。
フースターを受け取る人が
オミクロ株の感染拡大率
は急増した。ただ、1日更
たりの感染者数の最多記

も続いている、「ハイルス
ヒツクチノ競争」(ハヤ
ヒツクチの競争)。
海上開拓機と競合してア
ウン英荷相争は11世紀の
英船の奇襲で艦隊を撲滅
した。「荷蘭國がヒツクチノ
を賣つたぬか、新しく敵
異株の出現は幾度もはな
い。海上開拓ヒツクチノを唐
かるじと失敗したこと
が、私たるの娘に今からか
かりでござ」

英國 3回目 加速 街で携帯で「予約を



[Our World In Data]の集計から、12月23日時点。追加接種も含む。所得水準は世界銀行の分類

オムクロノ株式会社は、感染が右耳半ばに降り、意識大した脳アーリンガ。12月には感染のほぼ全者がオムクロン株に置き換わった。15日には1日あたりの新規感染者数が2万6976人となり、過去最多を記録した。

現在、1日あたりの新規感染者数は下がり始めている。首都ブロックでも最大

都市部では感染者数が
爆発率も減少傾向だ。
国立感染病研究所（NII）
CD）のシニャル・クルー
ム博士は「ハウテン医では
止一歩を越えたと看える」
と語る。人口の7割が過去に感染して基礎的な免疫力を獲得したとの推計だが、実際
にどうおり、いかした感染

南ア接種率26% 「変異株を生む温床」

約
か
渡
た
と
候

先進国と後発国との
「ワクチン差別」も課題

がる。世界は3回目の感染を想定したワクチンの確保に躍起だ。3回うてば、オミクロン株による重症も一定程度は防げそうだからだ。

一方、所得の低い国々では、標準回数のワクチン接種率も低い状態が続く。WHOなどが主導する「COVAX（コバックス）ファシリティー」による共同調達の枠組みはあるものの、当初の予定どおりにはいかず、所得の高い国々との格差は広がる一方だ。

国内外で新型コロナを標的にした飲む抗ウイルス薬が使えるようになった。有力な武器ではあるが、感染拡大を防ぐ最大の手段がワクチンであることに変わりはない。米エール大の岩崎明子教授(免疫学)は「できるだけ早く、世界中にワクチンを行き渡らせるべきだ。そうでなければ、私たちはいつまでも変異株に悩まされ続けることになりかねない」と警告する。(編集委員・田村健二、野口徹太)

低所得国へ進まぬ調達 警告の声

新型コロナが確認されて2年。収束への道筋は、オミクロン株の広がりによって、ますます見えにくくなっている。

2020年4月、米ハーバード大チームのある予測力科学誌サイエンスに載った。

「人との距離をとる政策（ソーシャルディスタンシング）を、断続的に22年まで続ける必要があるかもしれません」

そんなに長く続くのか——。当時は「厳しい予測」という印象の方が強く、いまの事態を予想することは難しかった。

収束のシナリオとして描かれていた一つは、「集団免疫の獲得」だった。多くの人がウイルスに対する免疫を獲得することで、施

行が本がらないようになるという考えだ。

そのための大きな手段として期待されたのがワクチンだ。米ファイザー社や米モデルナ社が完成させたm（メッセンジャー）RNAワクチンは、専門家が開発段階で期待した「感染した人の重症化予防」だけでなく、感染者の重症化を防ぐ高い効果を示した。

だが、ワクチンによって集団免疫を得てコロナを収束させる戦略は、相次ぐ変異ウイルスの出現などによって難しくなっている。

今年11月に報告されたオミクロン株は、ワクチン接種などによる免疫をすり抜ける力が高いとされ、世界保健機関(WHO)によれば「多くの国で2~3日で倍増するペース」で広